平成 28 年度第 1 回南北海道定住自立圏共生ビジョン懇談会議事録（要旨）

日時：平成 28 年 7 月 25 日（月）　13:30～15:10
場所：函館市国際水産・海洋総合研究センター

（13:30 開会）

＜挨拶＞

（函館市国際・地域交流課長）ご承知のとおり，定住自立圏構想は,「集約とネットワーク」そして「役割分担」の考え方に基づき，地域における共通の課題解決や産業の振興に取り組むことを目的としており，当圏域においては函館市が中心市となって，渡島・檜山管内の１７市町とそれぞれ協定を締結している。

各自治体が取り組む具体的な連携事業については，いわゆる実施計画である「共生ビジョン」に盛り込まれており，平成２６年９月の策定後に追加事業 を協議・検討頂き，昨年１１月に変更を行った。現在，ドクターヘリの運航をはじめとし，事業が進捗している状況については後ほど紹介させて頂きたい。

共生ビジョンの計画期間は，平成２６年度から平成３０年度までの５年間となっており，各分野の専門家である委員の皆様より豊富な知見や経験に基づくご意見を頂戴しながら毎年見直しを行っていく。

このたびの懇談会は，９名の委員からなり，引き続きが３名と新たな体制となってから初めての会議であるので，委員の皆様には，広い観点から闊達なご議論を期待している。

歴史と伝統が息づくこの道南が，将来にわたり「安心して住み続けられる地域」となるよう，本市は中心市としての役割をしっかりと担ってまいりたいと考えており，今後とも皆様のお力添えをいただきたい。

＜委員等紹介＞

（事務局）委員，オブザーバー，連携市町からの出席者の紹介。

＜座長・副座長選出＞

互選および座長の指名により，座長には南部委員，副座長に八十科委員が選出された。

＜議　　事＞

（南部座長）今回，函館市の３名の委員以外は新たに就任された方々が多くいる。議題に入る前に，委員の皆様から，自己紹介を兼ねて，それぞれの分野や地域の課題・現状などをお伺いしたい。

（八十科副座長）上ノ国町では，人口が５，５００人ほどとなっており，凄まじい勢いで減少している。町としても保育料を無料化，小中校の給食費無料化など手を打っており，少しずつ子どもが増えてきていると聞いているが，目ぼしい解決策は見つかっておらず，厳しい状況である。郡部の住民はやはり教育や医療の分野で函館に来ることが多い。郡部と函館市が連携していくことで，住みやすい地域にしていきたい。

（三浦委員）函館の観光状況としては，３月２６日開通の北海道新幹線の利用実績はゴールデン・ウィークを境に順調に推移している。ＪＲ北海道の報告では６月の利用実績は対前年比で２倍，１日７，９００名の利用があったとのことである。函館市内の観光施設については，４月以降，対前年比を越えており，新幹線効果が出ているのではないかと思われる。航空各社については，対新幹線との対比で不安視もあったが，対前年比１．６％増加で相乗効果がみられる。インバウンドに関しては，北京便，杭州便が５月から運休しているが，これら以外に在来便においては比較的好調である。８月１２日から，台湾の格安航空タイガーエアーの就航，北京首都航空並びに中国奥凱航空が新たな就航を考えているということで期待しているところ。ホテルに関しては，宿泊率が大変好調との報告を受けている。料金も久々に高くなっている。問題は来春以降。来客者にリピーターになって頂けるようなホスピタリティで接していきたい。

（川内委員）バス協会は函館管内，渡島管内，檜山管内において１５の会社からなっている協会である。路線バスにおいてはＩＣカードの導入を目指している。今年度中の利用を目指し導入を図っていきたい。貸切バスに関しては三浦委員の説明通り，新幹線効果で函館地区は観光客者が増えていることもあって，好調である。来春以降の観光客の動向が不透明ということで，集客に向けて各会社が頑張っている次第である。何よりも安全安心な輸送の確立ということで頑張っているので，引き続き，よろしくお願いしたい。

（馬委員）外国人の個人観光客が増えていくなかで，観光サービスが追いついていない状況がある。日本と中国の文化の違いから生まれる誤解やわからないことがある中で，これからどういったサービスで個人の観光客，ツアーの観光客に対応していくのか，地域に特化して，外国語の強化などについ提言できたらいいと思う。

（高井委員）北斗市商工会に来る前は市役所に勤め，教育委員会で学校教育に携わってきた。函館市の隣町として，多くが通学・通勤に函館市に通っている地域であり，圏域の恩恵を受けたのかなと思っている。北斗市商工会においては事業者の廃業が相次ぐ。会員７５０名の内，昨年度２２団体が脱退，新規加入が８件であった。脱退の内訳としては，廃業が多くを占める。後継者がいないという問題のほか，今の経済状況で子どもに苦労させたくないという思いや，子供達の数が少なくなっている等の背景がある。また，事業者の高齢化も進んで

いる。まちづくりという分野では勉強不足ではあるが，様々な意見を聞いて，この計画の意義を見い出し，役に立ちたいと思う。

（新井田委員）町の現状を報告する。３月の北海道新幹線の開業に伴い木古内駅がオープンした。駅前には道の駅「みそぎの里きこない」もオープンし，全てが観光客ではないにせよ，当初の推定を大幅に超え，入館者は３０万人を超えた。町によると昨年の観光客は数万人であるので，半年間で数倍である。しかし，これが地域の発展や人口増加に関わる町全体の底上げになってかと思う方もいる。施設だけが盛況で，一歩外に踏み出すと町に人が歩いていないという状態である。これからの課題としては，賑わっている施設と町をどのように繋げ，町全体に波及させていくかというところである。２，３年後に同じように人が来てくれるように，町，商工会が努力していく必要があると考えているところである。

（堀田委員）今回初めて委員に選出していただいた。七飯町は北斗市と函館市に隣接しており，どちらかというと函館市のベッドタウンの性格が強い町である。買い物等は函館市や北斗市に出向くといった感じの町民の生活スタイルである。観光面としては，大沼があり，以前のような賑わいはないが，新幹線効果もあり少しずつ観光客が増えてきている状況である。人口規模は函館市の十分の一程であり，予算も決して多くない状況である。公共施設に関しても，町内会からも図書館建設の希望があるが，なかなか実現出来ない状況である。そういった意味では，隣接する函館市や北斗市に大変お世話になっているという状況である。人口面では微減という状況で，小さい子ども達に関しては若干減少つつあり，高齢化がかなり進んでいる。新幹線効果に関しては，新函館・北斗駅に隣接しているが，そこまで大きな影響はなく，七飯町に建設された車両基地に期待できると思っている。8 月 22 日には大規模な新幹線の車両基地がある仙台市の隣町である利府町の町内会連合会との交流がある。町内会としてどのように新幹線の車両基地の開設に協力していくのか参考にして反映したい。また，現在七飯町では峠下に道の駅を作る構想があり，来年開業予定。昆布館やラッキーピエロ総本店と共に観光的に活きていけばよいと思う。観光面に関してもう少し考えてみると，道南は北海道の中でも歴史の古い地区であり，アイヌ，松前藩，外国人捕虜などまだまだ掘り起こされてない歴史的経緯もある。通りいっぺの観光ではなく，そのような歴史に関して深く掘り下げて興味を持ってくれる人が増えたらいいのではないかと思う。最後に一つ，七飯町には本州からの移住者がいる。その様な定住者からの活発な意見や先進的な考え方を積極的に取り入れつつ，地域の定住化，人口増加，観光の発展に繋げていければいいなと思う。

（田中委員）乙部町の現況としては，基幹産業である一次産業の衰退に伴い人口が減少し，高齢化率が４０％を超えている。しかし，企業誘致などの対策の中で，加工場やバリアフリーのホテルなど２社を誘致した。雇用の場を生み出し，障がい者も楽しめる施設づくりが進

行中である。全国でも珍しい障がい者がそのまま海に入ることが出来る元和台海浜公園が昨日オープンした。人に優しい施設づくりを進めながら，観光客の入り込みを期待している。先ほど上ノ国町の八十科さんからお話があったように，檜山管内においては医療過疎，教育過疎と思っている。医療に関しては，資料によると北檜山，北渡島檜山医師不足である。退職した公務員等も，函館市に移住している。地域に医療従事者や支えとなる身内もいないとなると函館市に移住してしまう高齢者が多い。そのような人口減少に歯止めがかかっていない。函館市を中心に道南において，医学部設立など医療従事者の育成もまちづくりの一貫として考えていきたい。乙部町は，官軍が上陸した町であり，函館を中心とした歴史的背景を道南エリアで全国に発信していくことが一つでもあると思っている。ここにいる皆さんと協議して，大きなイベントにしていきたいと思っているので，よろしくお願いしたい。

（井口委員）奥尻において新幹線効果は，ほぼ無い状況。６月に少し増えた程度。函館まではお客様はくるが，それ以降，特に離島になると船か飛行機になり交通手段，移動距離の面でなかなか厳しいものがある。また，フェリーのダイヤと新幹線のダイヤが合っていないと言う問題もある。しかし，来年５月以降はハートランドフェリーの新造船が出港し，快適な旅と時間短縮が期待されている。それに含めて，新函館北斗駅からフェリー乗り場がある江差までバスで約 1 時間ほどということで南北海道の一つの町として新幹線効果も期待し，売り込みたい。また，町の大きなイベントとして，今年で３回目を迎えたマラソン大会がある。来年度は６月１７日に開催予定であり，５００人を目標にしている。島全体の宿のキャパが２４施設で８００名あるため，ランナーだけではなく，家族なども観光も兼ねて訪れてもらいたい。函館市とともにマラソンで道南を盛り上げていきたいと思っている，よろしくお願いしたい。

（南部座長）公立こだて未来大学に着任し今年で１２年目になる。外から来たものだが，３年か４年くらい函館にいて，東京に戻るつもりだったが，大学の環境も良かったし，函館や南北海道のことが大好きになってしまい，今はずっとここで研究者生活を送っていきたい，その後も住み続けていきたいと思っている。

専門分野は心理学で，その中でも未来大学にいるので，情報技術が人や社会にどのような影響を与えるのかを心理学の視点から研究している。最近では，医療と介護の分野において，電子カルテの画面デザインが医師と患者のコミュニケーションをどう変えるのかといった研究をしている。市内だと，函病や高橋病院と連携して見守り，情報共有のシステムのあり方を研究している。最近特に力を入れていることは，認知症ケアの現場の負担をロボットまたは情報システムを使って軽減できないかということについて，徘徊と認知症患者さんを対象とした模擬訓練に取り組んでいる。現在ソフトバンクのロボットを使って声かけの訓練をするようなシステムを創っている。私が大学を入った頃には，バブルが崩壊していた。大学を卒業した時には就職超氷河期と呼ばれていた時代で，社会の中で，大きな成功体験や

すごく良かった体験がない。そんな団塊ジュニア世代の私が，これまで共生ビジョン懇談会に関わって良かったと思ったのは，成功体験のない私のような世代の人間と，ある時代，経済的・人との繋がり・地域の盛り上がりが良かった時代を知っている上の世代の方々と，もっと若い世代も含めて，世代間でずっと，ビジョンを共有していくということは重要で，成功体験のない私達だけで考えると，割としぼみがちな議論になってしまうのだが，いろいろな世代の方とお話をし，アイデアをいただくことで，夢や野望など良い方向に議論が活発になっていくという経験をした。

今回のビジョン懇談会の皆様にも，実現可能性は別にして，夢や野望や種をまくといった姿勢でいろんな意見を頂きたいと思う。ここでは思っていることをためらわずに発言いただきたい。よろしくお願いしたい。

【議題１】　事務局より資料の事前配付により説明を省略
（意見・質問等　なし）

【議題２】　事務局より資料に基づき説明

（南部座長）地域公共交通のいさりび鉄道への支援，あるいは生活バス路線の維持・確保の事業は平成３０年以降はどうなるのか。

（事務局）定住自立圏の財源措置があるなしに関わらず，地域の判断により支援は継続していくと思われる。財源がどうなるかについてはその後検討していくものになると思う。

（南部座長）広域医療体制等の充実の初期医療体制の充実事業に関して，関係市町として北斗市と七飯町があげられているが，他の市町との連携は，内容からして拡げてしまうと広域過ぎるのか。

（事務局）今のところ負担金を頂戴しているのが，函館市，北斗市，七飯町であり，その負担金に関して定住自立圏の財源措置があるものである。

（高井委員）第三セクターの道南いさりび鉄道に関して，黒字経営には転換しないという報道がある。北海道，函館市，木古内町などからの出資があるが，赤字経営が続いた場合，第三セクターの会社の存続はどうなるのか。

（事務局）定住自立圏の資金の活用について，事業が既にあってその事業に定住自立圏の考え方を活用できれば連携して支援していくものである。定住自立圏があるから支援するというものではなく，いさりび鉄道に関しては，北海道や沿線自治体において支援することで

合意がなされたもの。今後においては関係者で合意ができれば，支援が継続されることになり，その際に定住自立圏という制度があれば，関係市町で協力し，このような財源措置を活用していくものと思う。

（馬委員）外国人観光客誘客による地域国際化事業の中に，多言語版観光パンフレットの作成とあるが，現在インターネット等での公開はあるか。どこにアクセスすればみることが出来るのか。

（事務局）函館市の観光ＨＰ「はこぶら」が既に多言語に対応している。函館市の観光パンフレットも既に多言語対応している。

【議題３・４】　事務局より資料に基づき説明
（南部座長）資料の内容に直接関わることや，今の説明を聞いた上でのアイデアなど何でも構わないので，意見を頂きたい。

（田中委員）資料９－３のＩＣカードシステム導入支援について，導入時の初期費用に対して関係市町が連携して財政支援を行うことについて協議とあるが，各首長達と協議を進めているのか。

（事務局）これに関しての各首長と話し合いについては，当市の担当者が渡島・檜山町村会等を通じて調整を進めているところである。渡島に関しては導入の方針で進めている。
　檜山に関しては利用頻度の課題がまだ残ることから調整が進んでいない状況である。

（田中委員）私が気になっているのは，函館バスはあくまでも民間企業である。公共性があるとはいえ，民間企業のこのようなシステムの導入に対しての費用を補助してもいいものなのか。

（事務局）民間企業の支援については，問題はない。ただ，各市町においては，函館バスの利用状況がそれぞれ違うので，各市町村での考え方が当然あるものと思っている。

（田中委員）函館バスへは路線バス等の生活路線の維持・確保に関して補助しているが，老朽化したシステムを新しいものに更新することを支援するというのはどういった形で進めるのか，またこのような前例を作っていいのか。

（事務局）赤字路線の支援については，函館市や道，各市町で行っているところ。このようなＩＣカードシステム導入支援が前例となって，今後函館バスへの支援が増えていくので

はないかというお話だが，その場合はその都度の状況による。ＩＣカードの導入については，経営の効率化，路線維持のための利用状況の把握等，今後路線を維持していくために，各市町において支援について判断し，考えていかなくてはならないと思っている。

（八十科委員）人口減少対策としての「海外からの若年層の受入」に関して，考え方は理解できるが，課題としてあげられるのが，受入後の教育制度である。そういった観点からの議論はなされているのか。

（事務局）これまでこの場で具体的な制度設計の話しはなされていない。事業化をするにあたっては，当然制度設計が必要となる。その場合は事務局で検討を進めて，提案という形になる。

（南部座長）上記に関連して，大学に海外からの留学生が多く来ている現状の中で，未来大を例にすると，大学間連携で講座を作るという動きが始まっている。情報交換をしながら，大学内で行っていることを広げていけたらいいのでは。

（事務局）函館市のもつ機能としては，北海道国際交流センターが行う日本語講座や日本語教育研究会など民間団体が行っているボランティア活動がある。それに加えて大学での活動など函館での日本語教育活動が広がってきている。これらを広域連携で住民に活用してもらうことも含めて検討課題としていきたい。

（三浦委員）ＩＣカードの導入に関して，積極的に進めてもらいたい。ＪＲ北海道においては，新函館北斗駅から函館駅間，ＩＲ東日本においては仙台以北においてＩＣカードが利用できないので将来的には導入してほしい。市内の一部タクシー会社ではＫＩＴＡＣＡの導入があるが，公共交通に幅広く導入していただきたい。新函館北斗駅から函館間の移動において，首都圏からの観光客はＳＵＩＣＡが使えないというのは不便であるという声がある。コンビニ等でも利用できることから，消費が進むと思うので，道南で幅広く活用出来るシステムを将来的に構築して頂きたい。

（馬委員）私も外国人で，８年前に函館に来て生活し，バスや電車の中で，英語の表記はあるもののやはりバス停や電停の表記や案内，目的地と停車場の関係性が分かりにくいと思った。車内で降車をお知らせするアナウンスや停車場の近くに何があるかというアナウンスがあると親切だと感じた。函館に来る留学生や移住者に対してそのような工夫があればいいと思う。

（南部座長）外国人にわかりやすいアナウンスは地元民にもわかりやすいと思うので，何ら

かの形でこのトピックを取り入れていく可能性はあると思う。函館市が運営している「はこぶら」が非常に利用しやすいと観光客から聞く。「はこぶら」から各市町のページにリンクできるのか。可能性はあるのか。

（事務局）可能性としてはあると思う。現状どこまでリンクしているのか確認不足なので，確認次第，次回までに実現可能性を探っていきたい。

（馬委員）「はこぶら」が中国や台湾においても検索エンジンに入れるとトップに出てくるようになればいいなと思う。

（南部座長）海外の方が「はこぶら」を入口にして，検索しやすいようにするにはどのようにすればよいのか，私個人でも調査していきたいと思う。
　他に，資料掲載の内容以外にも，何か意見はないか。

（堀田委員）一つ目，道南地域には技能研修生として中国の方が多いと思う。その中には農業や漁業関係の短期就業者もいるかと思う。その様な方々がどの程度観光をしたり，日本語の勉強をしているのかという実態がつかめているわけではないが，観光をしたり，初歩程度の日本語を勉強する機会がもっとあれば，帰国したときに北海道，函館のＰＲにつながるのではないかと思う。労働ばかりにフォーカスするのではなく，もっと研修等にこの定住自立圏の予算で支援してあげたらよいのではないかと思う。二つ目は，地域路線バスの維持・確保に関して，多様な車両による地域公共交通の改善という事業には賛成だが，実際に七飯町内を走る函館バスをみるとかなり空いているように見える。大型バスよりも小規模のバスを使う方が良いような気がするが，経済的にどうなのか伺いたい。

（川内委員）バスの小型化に関しては，維持経費の面で良いということがあるが，全てを小型化してしまうと七飯町から函館市内に入った時に乗客が溢れてしまうという問題もある。大型バスから中型化といった入替を図っている。

（南部座長）交通に関してはしっかりやっていかなければならない分野であると思うので，引き続き議論していきたい。今回説明いただいた資料を持ち帰って，地元の方と議論して，地元の方がどのような意見を持っているのか次回に持って来て頂きたい。今すぐでなくても，もし何か思いついたことがあれば事務局にご連絡頂きたい。

＜その他＞

（事務局）

次回開催日程について

・10 月上旬を予定

次回会議内容

・追加事業も含め，ビジョンの変更案をお示ししたい。

（南部座長）本日の議題が全て終了した。本日はこれで閉会とする。

（15:10　閉会）

出席委員　　１０名

欠席委員　　２名

傍聴者　　無